

情報提供資料

令和5年6月28日(水)

日高市

教育部 生涯学習課 生涯学習担当

Tel042-989-2111 内線 5535

課長 中條 智則

担当者職・氏名 主査 金嶋 信也

第32回大学公開講座 日高ライブラリーカレッジを開講します

大学公開講座日高ライブラリーカレッジは、平成2年度に開講し、今年で第32回目となります。

開講当時から現在に至るまで、受講生参加型の公開講座であり、受講生で構成される企画運営委員会が企画・運営を行っています。

第32回となる今回は、全6回で開講します。また、日高ライブラリーカレッジの本格再開にあわせ受講生以外も無料で参加できる特別講座を開催します。

日時 令和5年7月22日(土)、8月12日(土)、9月23日(祝)、10月7日(土)、21日(土)、
11月4日(土) (全6回)
午後1時30分から

場所 日高市生涯学習センター 視聴覚室
(日高市大字鹿山370番地20)

人数 100名 (申し込み順)

内容・講師 別紙のとおり

受講料 2,000円 (講座6回分)

申し込み 令和5年7月1日（土曜日）から14日（金曜日）までに、電子申請または申請書を記入し直接生涯学習課・各公民館・市立図書館へ提出してください。

※申請書は生涯学習課・各公民館・市立図書館にあります。

【特別講座】

日時 令和5年8月26日（土） 午後1時30分から

場所 日高市総合福祉センター「高麗の郷」 研修室
（日高市大字楡木201番地）

人数 200名（定員に達した場合は全6回の受講申込者優先）

内容・講師 別紙のとおり

受講料 無料

申し込み なし

< 学習プログラム >

※都合により、テーマや講師などが変更になる場合があります

日時・会場	テーマ / 講師 (敬称略)	講義内容
第1回	開講式 講義開始前	
7月22日(土) 13:30~15:30 生涯学習センター	歴史の定説を疑う ～もう一つの家康像～ 東京大学史料編纂所 教授 本郷和人	豊臣政権はすぐ崩壊し、江戸幕府は260年続きました。秀吉になく、徳川家康にあったもの、それは強固な家臣団、忠義で強い三河武士団であるといわれています。本当でしょうか。信長、秀吉、家康。いわゆる三英傑を比較しながら、何ごとをなすにも基礎になる「人使い」を観察しながら、考えていきましょう。
第2回		
8月12日(土) 13:30~15:30 生涯学習センター	シニアを心豊かに生きるには 立教大学 名誉教授 大野 久	「シニアを心豊かに生きるには」をテーマに、生涯発達心理学の立場から、とくに、人生における職業を越えた意味での働くことと、周囲の人たちを愛することの重要性を説明し、人生の意味を問い直す考え方についてお話します。
第3回		
9月23日(土) 13:30~15:30 生涯学習センター	ダライ・ラマ14世 ～平和の象徴・21世紀のブッダ～ 医療法人和会 武蔵台病院 病院長 医学博士 西蔵ツワン	ダライ・ラマ14世は、一貫して非暴力、宗教間の相互理解、地球規模の責任感、慈悲といったメッセージを世界に発信し世界中で共感を得ております。さらに、ダライ・ラマ14世は平和の象徴として1989年にノーベル平和賞をはじめ数多くの賞も受賞されております。
第4回		
10月7日(土) 13:30~15:30 生涯学習センター	AIと5Gが促す デジタルトランスフォーメーション (株)MM総研 代表取締役所長 関口和一	「ChatGPT」に象徴される人工知能(AI)や5G、IoTなど最新のデジタル技術の広がり、自動運転やロボティクス、ドローン、フィンテックなど様々な分野でビジネスや経済の仕組みを変えようとしています。
第5回		
10月21日(土) 13:30~15:30 生涯学習センター	水素・二酸化炭素と触媒 東京都立大学 教授 宍戸哲也	本講義では、「水素(エネルギー)」「二酸化炭素」「触媒」をキーワードに、1)水素(エネルギー)を「つくる・はこぶ・つかう」技術の基礎化学と課題、将来に向けた展望 2)二酸化炭素の回収・資源としての利用技術と課題などについて紹介します。
第6回		
11月4日(土) 13:30~15:30 生涯学習センター	JR高麗川駅の120年 ～八高線・川越線の歴史をひも解く～ 立教大学 名誉教授 老川慶喜	八高線も川越線も帝都東京の外郭環状線の一部をなし、産業開発に資するのみでなく、軍事・国防上の役割が期待されていた。ここでは、八高線・川越線の計画から開業までの事情を明らかにし、両線が果たした日本の近現代史上の役割を考えてみたい。
	閉講式 講義終了後	

< 特別講座 >

日時・会場	テーマ / 講師 (敬称略)	講義内容
8月26日(土) 13:30~15:30 総合福祉センター 「高麗の郷」	追憶の中の社会主義 ～ロシアのウクライナ侵攻と世界秩序～ 世田谷区生涯大学 学長 笠原清志	ロシアのウクライナ侵攻によって、国際秩序の綻びとその前提が崩れつつあることが誰の目にも明らかになってきた。後世の歴史家がどのような評価と記述をするかは別として、2022年という年が歴史の転換点になることは明らかである。